

第4回 神戸リカバリー研究会
障害者団体の相談者から見る問題点

～情報こそ命！～

兵庫頸髄損傷者連絡会

三戸呂克美

1. 自立生活の経緯と現状

- 頸損歴³⁴年の軌跡
- 今日までの道のり
- 一人暮らしを決めた時
- “三戸呂克美を助ける会” を立ち上げる
- 自立生活への手ごたえ
- 住宅探しから学ぶ
- 自分流健康法

2.相談・支援活動を通じて

- **関われない相談の問題点**
- (当事者と病院や主治医との間で発生する事項)
- **関わりたくない相談の問題点**
- (当事者の精神的な悩みや家族間のこと)
- **ぶち当たる壁**
- (1) どうすればいいのか分からない壁
- (2) 越えられない壁

ぶち当たる壁(1)

- どうすればいいのかわからない壁
- 痛みがひどく主治医に伝えても鼻であしらわれるような態度を取られ聞きいれてもらえない。
- 子どもの障害のことを主治医に伝えても聞きいれてもらえずクレーム扱いにされる。
- 自殺未遂で障害者になり入院しているが真剣に聞いてもらえず負い目を感じている。
- どこに言えばいいのか、誰に言えばいいのか教えてほしい（高齢者家族からの相談）。

ぶち当たる壁 (2)

- **超えられない壁**
- 入院先の病院から転院を言われているが病院を紹介してほしい。
- 労災だが勤務先が動いてくれず、自分たちが事務手続きなどすべてをやるのは納得がいかない。
- 会社の担当者に聞いてもきちんと教えてくれないし納得のいく返事が無い。
- 個人で弁護士に依頼したが会社の顧問弁護士と先輩、後輩の中で思うように動いてくれない。
- 同僚にかん口令が敷かれ話し(証言)てくれない。

3.これからの理想の支援のあり方

- 支援を求めていることは良く分かる。
- 相談された時自分の範疇で無い事項について、誰に回答を求めたらいいのか迷うと言うより分からない時がある。
- 拠点となるセンター的などところがあり、コーディネートしてくれる人もいれば安心して相談を受けることもできるのではないだろうか。
- 自身のヘコみも無くなるだろう。

相談の事例

- 私には、交通事故により車いす生活となった母（60代）がいます。現在、在宅で一日中ベットで過ごしている状況です。
- 頸椎損傷を専門に見ていただける先生は少ないと聞いています。そちらの連絡会で、病院等の情報をお持ちでしたら、教えていただけないでしょうか？
- 情報提供は入会しないと無理でしょうか？
- 初めてのメールで失礼かとは思いましたが、できることでしたら、情報提供をお願い致します。